

## 25. 鹿児島県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2021年度）

鹿児島大学病院てんかんセンター 花谷亮典

### 1. 概要

2021年3月25日に第2回の協議会を開催し、拠点病院を中心とした2020年度の活動報告と、2021年度の活動計画報告が行われ承認された。

鹿児島県てんかん治療医療連携協議会構成委員 12名

鹿児島大学てんかんセンター 医師2名（センター長、副センター長）

鹿児島医師会（常任理事）

鹿児島県精神科病院協会（理事）

てんかん協会鹿児島県支部

鹿児島県看護協会

鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会

鹿児島県精神保健福祉士協会

鹿児島県精神保健福祉センター（所長）

県立保健所長会（始良保健所所長）

鹿児島県教育庁（保健体育課長）

鹿児島県くらし保健福祉部（精神保健福祉対策監）

事務局：鹿児島大学てんかんセンター（拠点病院）

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課

### 2. 活動状況

今年度も各医療施設においては COVID-19 流行への対策が急務であったため、非対面方式の会議と講演会、拠点病院を中心としたてんかんの診療と福祉の連携体制構築に向けた取り組みを継続している。

2021年度の計画に基づいて、以下の活動を行った。

#### 1) てんかん診療についての普及啓発

##### ①啓発活動

パープルデー：てんかん協会鹿児島支部会員・鹿児島大学てんかんセンターコーディネーターらによる街頭啓発活動、および鹿児島大学てんかんセンター医師による Web 講演会を開催した。

##### ②行政職員研修

看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、事務職などの行政職員を対象に、てんかんに関する講演研修を行った。

## 2) てんかん診療拠点機関と地域の中核病院との連携

①診療拠点機関はオンライン連携診療を開始した。今後遠隔地を中心として県内にオンライン連携診療システムについての啓発を進めていく。

## 3) 県てんかん診療拠点機関の活動

①データの蓄積

②研修活動

定期カンファレンスの開催

③啓発活動

医療者に対する Web セミナーの提供

④コーディネーター研修支援

診療拠点機関のコーディネーターが、てんかん診療全国拠点である国立精神・神経医療センターが開催するてんかん診療支援コーディネーター研修会と JEPICA に参加し、てんかん診療支援コーディネーター認定制度による認定を受けた。

## 3. 課題

### 1) 診療拠点機関のてんかんコーディネーターによる相談・診療連携業務

てんかん診療支援コーディネーター業務に関しては、地域医療連携センターに所属する MSW のうち 2 名がコーディネーターの役割を担当し、病院を代表して医療機関、行政、患者会など外部との連絡対応にあたっている。また、同センターの他の職員もコーディネーター業務の補助を適宜行っている。しかし、MSW としての通常業務もあり、特に新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う調整業務も増えたことから、てんかん診療に割ける時間は限られている。コーディネーターによる対応を進めるうえで、人員増が可能としうる診療報酬措置は必須であろう。

### 2) 鹿児島県内の診療連携体制整備に向けた調整

医療部会の開催、地域でてんかんを実際に診察している施設あるいは診察可能な施設のリストアップ、患者の状態別に応じたトランジションの受け入れ可否の意向調査は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い遅れがでている。引き続きこれらの作業を継続する。

### 3) 行政ネットワークとの連携

市町村・保健所ネットワークをてんかん診療連携のハブとして活用が可能かどうか、まずてんかん患者の問題点や患者が求めている内容の抽出を行った。2020 年度では、県精神保健福祉センターや保健所、市町村が受けている相談件数のうち、てんかんに関係する相談は全相談件数の 1%にも満たない 56 件であることが分かった。相談内容については、診療、運転、診療費用、発作対応、助成・福祉など多岐にわたっている。この結果からは、当面は現在行っている行政職員向けの研修を通して、幅広い相談内容に対する対応力を高めることが有用と考えられた。

引き続き福祉機関、行政関連機関、教育機関、労働機関、医療機関、患者・家族との意見交換を通して、知識や意識の共有化を図り、保健師をはじめとする行政職員の活動目標を明確にすることが必要である。